

2020年度

さくらんぼ園だより



10月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴こども発達支援施設「さくらんぼ園」(TEL64-5798・FAX62-9171)

当たり前前の方が当たり前前ができる子に

今年の彼岸の中日(秋分の日)は、9月22日でした。そして、その日からしばらくすると、毎年そうであるように、ヒガンバナが咲き始めました。秋を象徴する花です。ヒガンバナは、花が咲き終わってから葉っぱが出てくるという、普通の草花とは逆の性質をもった草花です。ヒガンバナを見ると、小学生のとき、学校の帰りに、友達とヒガンバナに石を投げる遊びをしていたことを思い出します。茎にうまく当たると、折れるのではなく、鋭利な物ですぱっと切ったように花が飛んでいきます。それが楽しかったのです。ヒガンバナは多年草なので、毎年同じ場所に咲き続けます。私の住む地域のヒガンバナに花の飛んだものは見ないので、もう、そんな遊びをする小学生もいないのでしょうか。もっとも、今は道がアスファルトで舗装されているので、小石も簡単には見つけられませんが。



さて、次の文章は、私が小学校に勤めていたときに『学校だより』に書いたものです。

夏に京都に出張に行ったときのこと。カウンター席で一人カレーライスを食べっていると、近くの席に学生風の男性が座りました。しばらくして、その男性のところにもカレーライスが届きました。すると、手を合わせ、「いただきます。」をする姿が、私の視界にかすかに入ってきました。一瞬はっとしました。自分にとっては、ちょっとした衝撃でした。私は、これまで外で一人で食べる時、手を合わせ、「いただきます。」はしたことがありませんでした。一人だと、照れくさいからしていなかったのか。しないことが当たり前になっていました。しかし、その青年を見て、しない方が恥ずかしいことだと思えてきました。カレーライスをおいしくいただき、「ごちそうさまでした。」と言って席を立ちました。

子どもたちにとって、学校生活の中でも、普通することが当たり前前のはたくさんあります。例えば、毎朝出会う見守り隊の人に、目を見て「おはようございます。」と言うこと。給食当番を手伝ってくれた友達に、「ありがとう。」とお礼を言うこと。困っている友達がいたら声をかけてあげること、など。しかし、私がそうであったように、中には、そうすることがいいとわかっているけど、それが当たり前前になっていない子もいます。自分の気持ちと行動が結びついてはじめて、相手に思いを届けることができます。本校の子どもたちを、だれが見ても当たり前前のことを当たり前前ができる子どもにしていきたいなど、カレー屋さんで考えました。

主に年長の子どもたちですが、よく、園長室におもちゃを借りに来ます。初めは先生と一緒に来ていた子が、やがて一人でも来られるようになります。「どれがいい?」と聞くと、「これ。」と言えます。おもちゃを抱えて「みんなのへや」へ帰るとき、「ありがとう。」と言える子が出てきます。そのときは、嬉しいです。それがまだ言えない子もいます。そのときは、「ありがとう。」の練習をします。

確かに人の行為を見て学習することは多いです。しかし、礼儀や習慣などは、子どもにとって一番身近な家族が、そうすることがいいということを教えることが大事かと思います。そういう場面は、日常生活の中にたくさんあり、繰り返し教えられるのは、家族しかいないからです。さくらんぼ園の子どもたちには、当たり前前の方が当たり前前ができる子になってほしいと思います。

10月もよろしくお祈りします。

園長 小谷 和弥
職員 一同



10月 療育表



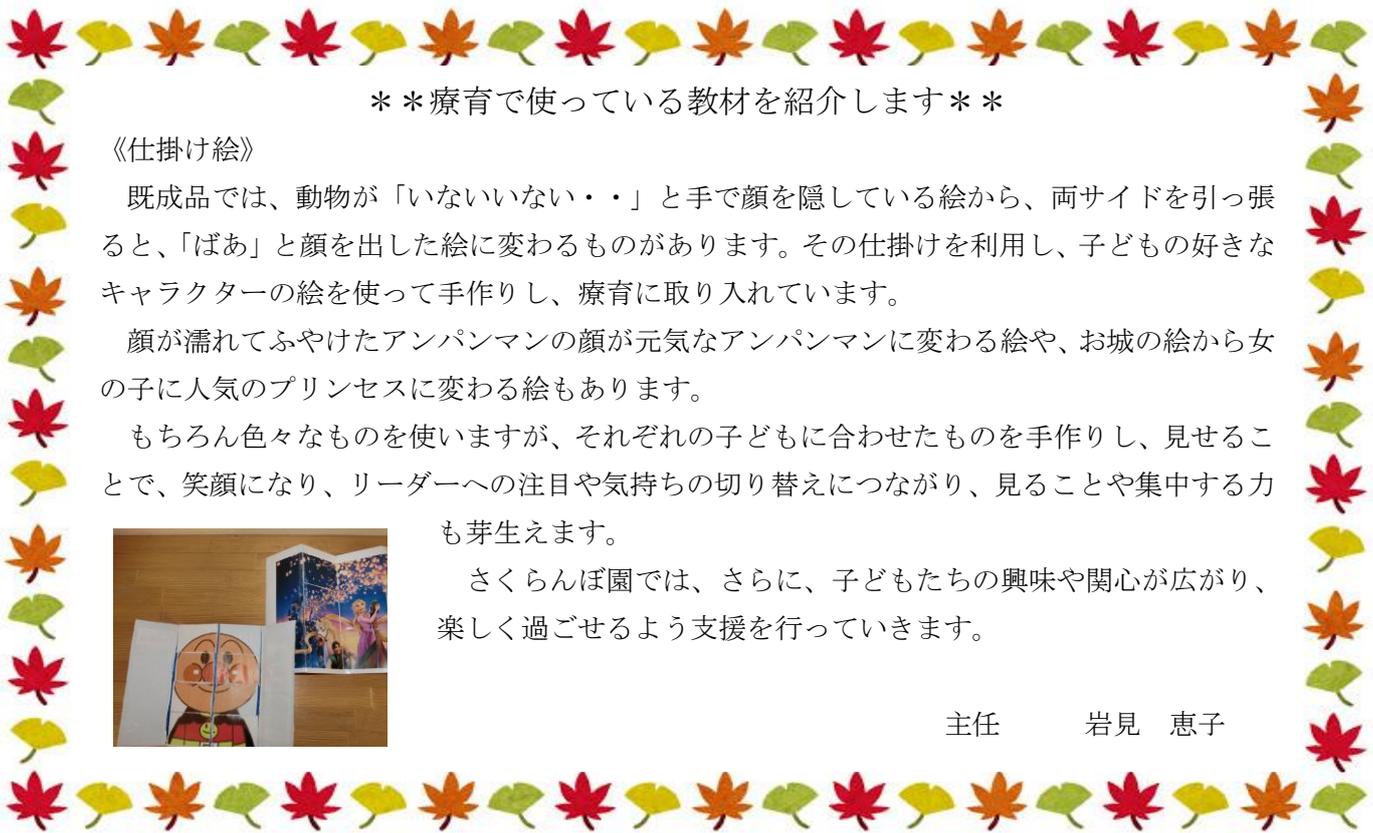
月	火	水	木	金
			1 研修会	2 午前療育 午後療育
5 午前療育 午後療育	6 午前療育 午後療育	7 午前療育 午後療育	8 午前療育 午後療育	9 午前療育 午後療育
12 午前療育 午後療育	13 午前療育 午後療育	14 午前療育 午後療育	15 午前療育 午後療育	16 午前療育 午後療育
19 午前療育 午後療育	20 午前療育 午後療育	21 午前療育 午後療育	22 午前療育 午後療育	23 午前療育 午後療育
26 午前療育 午後療育	27 灘先生来園 午前療育 午後療育	28 午前療育 午後療育	29 午前療育 午後療育	30 午前療育 午後療育

予 定

* 灘先生の来園日は *
10月27日(火)
11月11日(水) です。

* 年中児対象の就学説明会 *
日時：11月18日(水)
10:00~11:30(予定)
場所：中総合会館 3F
年中児の保護者さんを対象に説明会を開催します。
詳細は後日案内させていただきます。

* 10月1日は職員研修のため、療育はお休みとさせていただきます。よろしくお願いたします。



療育で使っている教材を紹介します

《仕掛け絵》

既成品では、動物が「いないいない・・・」と手で顔を隠している絵から、両サイドを引っ張ると、「ばあ」と顔を出した絵に変わるものがあります。その仕掛けを利用し、子どもの好きなキャラクターの絵を使って手作りし、療育に取り入れています。

顔が濡れてふやけたアンパンマンの顔が元気なアンパンマンに変わる絵や、お城の絵から女の子に人気のプリンセスに変わる絵もあります。

もちろん色々なものを使いますが、それぞれの子どもに合わせたものを手作りし、見せることで、笑顔になり、リーダーへの注目や気持ちの切り替えにつながり、見ることや集中する力も芽生えます。



さくらんぼ園では、さらに、子どもたちの興味や関心が広がり、楽しく過ごせるよう支援を行っていきます。

主任 岩見 恵子